

## シャコガイの放流体験学習

宮古支庁農林水産振興課

中 田 祐 二

### 1. 目 的

義務教育課程にある生徒を対象に、水産に関する基礎知識の習得と多良間村の地域の自然や資源、地域の漁業を理解させるとともに、新しい時代の「つくり、育てて、とる漁業」（栽培漁業）の体験を通して海の資源の大切さを知ってもらい、生徒の健全育成を図ることを目的に、漁村少年水産教室を開催した。

### 2. 教室名

『シャコガイの放流体験学習』

### 3. 実施対象

多良間中学校 2・3年生 48名対象  
名簿：別紙参照

### 4. 日 程

平成10年7月10日（金）  
11：45～12：35 講 義  
（多良間公民館を使用）  
13：45～14：00 移 動  
（村のマイクロバスを使用）  
14：10～15：30 放 流  
（放流）

### 5. 実施場所

講義：多良間公民館  
体験放流：多良間村長マン地先

### 6. 講 師

糸 正幸（株）多良間水産

### 7. 関経協力機関

多良間村経済課・（株）多良間水産・  
沖縄県水産試験場八重山支場

### 8. 経 過

平成10年5月7日に、多良間村立多良間中学校に仲間校長先生を訪ね事業の説明を行った。又同6月30日にも多良間に赴き同事業の準備を行った。

当日は台風1号が台湾近海にあり少々海がしけていたが、イノーの中で放流学習を行うので、安全性に問題はないと判断し水産教室を執行した。

シャコガイ種苗は7月8日に、この事業のために沖縄県水産試験場八重山支場から約10mmの種苗を500個頂いたものを用い、当日まで（株）多良間水産の生け簀を利用しストックした。

午前11：48から3分遅れで開講式が始まり、主催者である宮古支庁農林水産振興課水産係長である長嶺巖から挨拶があり、同事業の安全を祈願した。続いて、多良間中学校の仲間校長と多良間村の津嘉山助役から挨拶をいただき、自然の大切さを体験学習から学ぶようにとの挨拶があった。

開講式に続き講師の糸正幸氏がシャコガイの生態や、現状についての講義があった。なぜシャコガイが減ったのか、現在放流しているシャコガイの意味について生徒は真剣に耳を傾けていた。予定時間を少々オーバーしたが、12：40に講義は終了した。

放流現場への移動は多良間村の25人乗りの

マイクロバスを利用し1学年づつ輸送した。

午後になり定刻より10程度遅れて放流体験学習を始めた。放流前に放流方法の説明と放流の注意事項について説明を行った。

放流は4人1組になり、作業を行った。役割としては、①シャコガイを入れる場所を手で掃除し、②たがねとハンマーで穴をあけ、③シャコガイを穴に入れ、④網をかぶせタッカーで止めるという分担になった。

生徒はこちらが思っていた以上に真剣に放流作業を行い、1組につき約50個の種苗を放流した。ただ思った以上に穴をあける作業に時間がかかり、終了時間は予定を1時間ほどオーバーし15:30までかかった。

作業終了後生徒は飲み物を手にし、乗ってきた多良間村のバスで帰路に就いた。

## 9. 所感

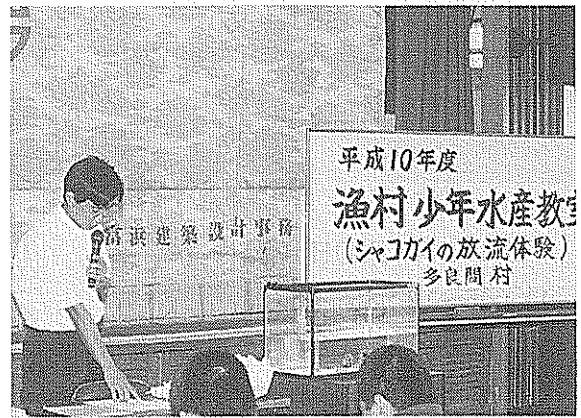
多良間村では平成8年よりシャコガイの放流が行われている。また、放流後の管理もよく、放流地点では稚貝が見られるようになってきている。

そういった中で、多良間村の子供達に自然の大切さや、栽培漁業の意義を教えるために同事業を行ったが、成果は十分に得られたと実感している。

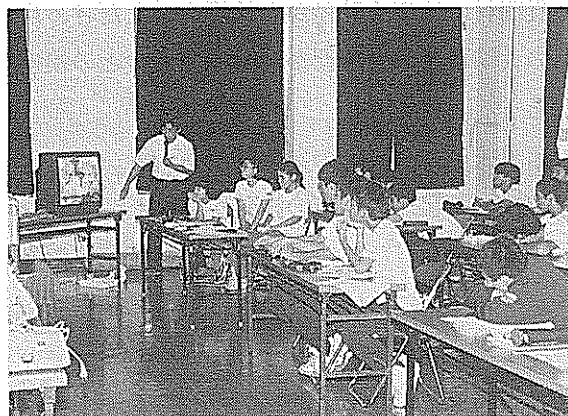
子供達の多くは中学を卒業後、多良間島から宮古島、沖縄本島へと出ていってしまうが、成人式には同級生がまた顔をそろえる。5年後になるそのときにみんなで収穫して食べてみたいとの話があり、すばらしいことだと感じた。今後も本水産教室を、多良間島で継続して行っていきたい。



津嘉山助役の挨拶



講師の桑正幸氏



テレビと顕微鏡を使って講義する



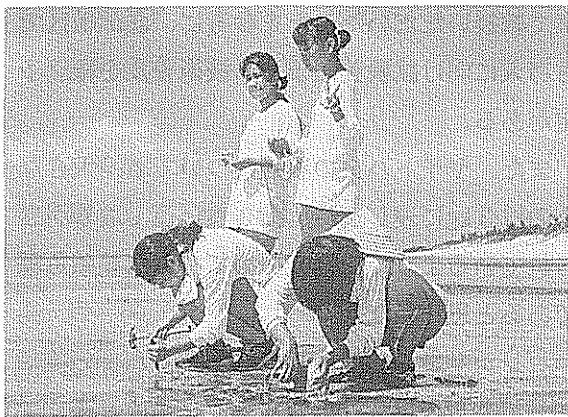
生徒代表挨拶



放流前の説明



今回放流した礁湖



たがねとハンマー、ホッチキスを使って放流



放流後講師と記念撮影